

第4章 副専攻プログラム、チャレンジ・プログラム、全学オープン科目

1. 副専攻プログラム、チャレンジ・プログラム、全学オープン科目とは

本学を卒業するためには、共通教育科目 26 単位、専門教育科目 74 単位を含め 124 単位以上を修得することが要件となります。つまり、共通教育及び専門教育科目で卒業要件として定められている以外の「24 単位」については、学生個人の主体的意欲・創意工夫に基づき、自身で履修計画を立てる必要があります。

【24 単位の活用例】

- ・ 所属学科の「専門教育科目」の中から数科目、「共通教育科目」の中から数科目、「全学オープン科目」の中から数科目といったように、自身の興味・関心に従って自由に組み合わせて履修する。
- ・ 「副専攻プログラム」の指定科目を修得することにより、所属学科の卒業証書とは別に「副専攻修了証」の授与を受ける。
- ・ 自分の所属する学科の「専門教育科目」について、74 単位を超えて修得し、その専門性についてより高い水準を目指す。
- ・ 全学の共通教育として開講されている「共通教育科目」について、26 単位を超えて修得し、幅広い視野や総合的な判断力を養うことを目指す。
- ・ 各学部・学科が全学に開放している「全学オープン科目」を修得することによって、多様化する現代社会にあって、学際的な視野を持った学識を有することを目指す。

【副専攻プログラム】

本学では学生自らの知的好奇心と学習意欲に基づいた履修に応えるため、平成 17 年度から「副専攻」制度を導入しています。これは、自分の所属する学科以外の専門教育を体系的に履修することができる制度です。

副専攻には、10 のプログラムが設定されており、これによって各自がその興味に基づき専攻以外の分野についても計画的、体系的に学ぶことが可能となっています（P88～参照）。副専攻プログラムの特徴は、

- ・ 各学部・学科から提供された専門教育科目を組織化したプログラム
- ・ 学部・学科の専攻コースの枠を超えた学際的プログラム
- ・ 資格や免許取得を目指すための基礎学習的なプログラム

からできているということです。副専攻は、1 年次から登録することが可能で、所属学科以外の専門的な教育を受けることが可能になります。各プログラムで設定された単位を修得することで、所属学科の卒業証書とは別に「副専攻修了証」が授与されます。

なお、副専攻プログラムの履修登録にあたっては、『時間割表』を確認してください。

【チャレンジ・プログラム】

特定の資格（教員免許等）に求められる知識や技能、特定の技能（語学等）にいつその磨きをかける（向上させる）ための発展的プログラムです（P97・98 参照）。副専攻とは異なり、所属学科の専門科目の履修が必須であったり、学外の資格試験の結果が求められたりすることがあります。単に資格を取るためや、基礎的学習をするためではなく、自らの強い意志をもって技能向上に取り組む学生に提供するプログラムです。

このプログラムを修了した学生には、「チャレンジ・プログラム修了証」が大学から授与されます。

【全学オープン科目】

所属学科以外の専門教育科目を履修したい場合は、各学部・学科が全学に開放している「全学オープン科目」（P99～参照）から、自身の興味・関心に基づき自由に履修することが可能です。修得した単位は、24 単位を上限に卒業要件（124 単位）に算入されます。

なお、全学オープン科目であっても、他学部・学科の学生が履修できない科目もありますので、履修登録にあたっては、『時間割表』を確認してください。

Ⅱ. 副専攻プログラム

【1. 日本語教育（日本語教員養成課程）＜26 単位＞】

日本語教育に関する知識を、言語、教育、社会・文化・地域に関わる領域から体系的に学ぶことにより、多様な日本語教育の現場に対応した教師としての資質を磨きます。修了証は日本語教育機関の教員の条件の1つに相当するので、これらの知識は、異文化共生時代を迎えた日本、および国際交流の進む海外における活動の選択肢を広げることにも役立つでしょう。

日本語教員には、国や自治体などの公的機関による認定や国家試験による統一的な資格認定の制度はありませんが、昭和 60 年に文部省（現在の文部科学省）の日本語教育施策の推進に関する調査会から出された報告「日本語教員の養成等について」に示された「日本語教員養成のための標準的な教育内容」の「日本語教育施設の運営に関する基準について」によって、日本語教育施設の教員の条件が示され、これに準じて大学においては、主専攻・副専攻による日本語教員の養成がなされてきました。次いで、その後の日本語教育状況の変化に対応して、平成 12 年 3 月に文化庁の日本語教員の養成に関する調査研究協力者会議から出された「日本語教育のための教員養成について」において示された「日本語教員養成における教育内容について」のなかで、昭和 60 年の文書における主専攻・副専攻の区別が廃止され、3 領域 5 区分からなる「新たに示す教育内容」が示されました。

上記の流れをふまえ、法務省が「日本語教育機関の告示基準（以下、「新基準」という。）」を公示し（平成 28 年 7 月 22 日に公示、平成 29 年 8 月 1 日から施行）、法務省告示校に勤める全教員は、以下の資格のいずれかを満たす必要があると規定されました。

「新基準第 1 条第 1 項第 13 号」に定める日本語教員の要件

- イ 大学（短期大学を除く。以下この号において同じ。）又は大学院において日本語教育に関する教育課程を履修して所定の単位を修得し、かつ、当該大学を卒業し又は当該大学院の課程を修了した者
- ロ 大学又は大学院において日本語教育に関する科目の単位を 26 単位以上修得し、かつ、当該大学を卒業し又は当該大学院の課程を修了した者
- ハ 公益財団法人日本国際教育支援協会が実施する日本語教育能力検定試験に合格した者
- ニ 学士の学位を有し、かつ、日本語教育に関する研修であって適当と認められるものを 420 単位時間以上受講し、これを修了した者
- ホ その他イからニまでに掲げる者と同等以上の能力があると認められる者

國學院大學の副専攻「日本語教育（日本語教員養成課程）」は、上記の「新基準第 1 条第 1 項第 13 号のロ」に該当し、修了証^{※1}も発行されるので、法務省告示校を含む日本語教育機関の教員募集の応募の際に使用することができます。

新基準		科目 区分	科目 供出	授業科目名	開講	単位	1 年	2 年	3 年	4 年	備考
領域	区分										
社会・文化・地域に関わる領域 教育に関わる領域 言語に関わる領域	社会・文化・地域	選択必修	共通	國學院の学び(日本語教育の歴史)	半期	2	○				2 単位以上
			史	日本史概論Ⅰ	半期	2	○				
			史	日本史概論Ⅱ	半期	2	○				
			法	日本政治史 A	半期	2	○				
			法	日本政治史 B	半期	2	○				
			神文	日本宗教文化論Ⅰ	半期	2	○				
			神文	日本宗教文化論Ⅱ	半期	2	○				
			哲	日本思想史 A	半期	2		○			
			哲	日本思想史 B	半期	2		○			
			日文	日本文学史Ⅰ	半期	2			○		
			日文	日本文学史Ⅱ	半期	2			○		
			経済	現代日本経済	半期	2			○		
			経済	日本経済と政策	半期	2			○		
			法	地方自治論 A ^{※2}	半期	2				○	
			法	地方自治論 B ^{※2}	半期	2				○	

新基準		科目 区分	科目 供出	授業科目名	開講	単位	1 年	2 年	3 年	4 年	備考		
領域	区分												
社会・文化・地域 に関わる領域 教育に関わる 領域 言語に関わる 領域	言語と 社会	選択 必修	共通	留学英語	半期	2			○		2 単位 以上		
			共通	留学中国語	半期	2			○				
			日文	言語学概論Ⅰ	半期	2				○			
			日文	言語学概論Ⅱ	半期	2				○			
			日文	現代日本語研究Ⅰ	半期	2				○			
			日文	現代日本語研究Ⅱ	半期	2				○			
			日文	日本語学各論Ⅰ	半期	2				○			
			日文	日本語学各論Ⅱ	半期	2				○			
			中文	中国語教養特殊講義 A	半期	2						○	
			中文	中国語教養特殊講義 B	半期	2						○	
	言語と 心理	選択 必修	哲	言語論 A	半期	2					○	2 単位 以上	
			哲	言語論 B	半期	2					○		
	言語と 教育	選択 必修	日文	日本語教育実習Ⅰ※3	集中	1					○	1 単位 以上	
			日文	日本語教育実習Ⅱ※3	集中	2					○		
		選択 必修	日文	日本語教授法Ⅰ	半期	2					○	6 単位 以上	
			日文	日本語教授法Ⅱ	半期	2					○		
			日文	日本語教育研究Ⅰ	半期	2					○		
			日文	日本語教育研究Ⅱ	半期	2					○		
			日文	日本語教育学演習Ⅰ	通年	4					○		
			日文	日本語教育学演習Ⅱ	通年	4					○		
	言語	選択 必修	中文	日本語学概論Ⅰ※4	半期	2		○				4 単位 以上	
			中文	日本語学概論Ⅱ※4	半期	2		○					
			外文	日本語学Ⅰ	半期	2							○
			外文	日本語学Ⅱ	半期	2							○
			日文	日本語史Ⅰ	半期	2				○			4 単位 以上
			日文	日本語史Ⅱ	半期	2				○			
日文			日本語学史Ⅰ	半期	2					○			
日文			日本語学史Ⅱ	半期	2					○			
日文			日本語音声学Ⅰ	半期	2					○			
日文			日本語音声学Ⅱ	半期	2					○			
日文			現代日本語文法Ⅰ	半期	2					○			
日文			現代日本語文法Ⅱ	半期	2					○			
合計											26 単位 以上		

○で示す開講学年で履修することが望ましい。ただし、履修学年に制限がない限り、当該学年以降でも履修することができる。

※1 修了証には、「本課程は、日本語教育機関の告示基準（法務省入国管理局平成 28 年 7 月 22 日策定）第 1 条第 1 項第 13 号口で求められた日本語教育に関する科目 26 単位以上を修得する教育課程であることを証します。」と明記されます。

※2 経済学部学生は、「地方自治論 A・B」を履修することができないため、専門教育科目「地方自治Ⅰ・Ⅱ」の単位を取得することによって、この「4 単位」の部分に充当することができる。

※3 「日本語教育実習Ⅰ・Ⅱ」の単位は卒業要件 124 単位には含まれないので、履修にあたっては注意すること（年次別履修単位制限のうちに含まれない）。また、「日本語教育実習Ⅱ」については、面談などの選抜により、2 年次での参加を許可することもある。なお、「日本語教育実習Ⅰ・Ⅱ」の詳細は、大学ホームページを確認すること。

※4 日本文学科及び初等教育学科の学生は、「日本語学概論Ⅰ・Ⅱ」を履修することができないため、専門教育科目「日本語学概説Ⅰ・Ⅱ」の単位を取得することによって、この「4 単位」の部分に充当することができる。

【2. 民俗と文化（日本文学科の学生は登録不可）＜16 単位＞】

「民俗」とは、民間の風俗、習慣、伝承などの総体です。儀礼や舞踊なども含まれます。つまり、日本の民衆が、古来、生活のなかで繰り返し実践してきたことをまとめて、客観的・体系的に学ぶのがこのプログラムです。

科目区分	科目供出	授業科目名	開講	単位	1 年	2 年	3 年	4 年	備考
選択必修科目	日文	民俗学史Ⅰ	半期	2		○			16 単位以上
	日文	民俗学史Ⅱ	半期	2		○			
	日文	伝承文学史Ⅰ	半期	2			○		
	日文	伝承文学史Ⅱ	半期	2			○		
	日文	日本民俗学Ⅰ	半期	2			○		
	日文	日本民俗学Ⅱ	半期	2			○		
	日文	口承文芸研究Ⅰ	半期	2			○		
	日文	口承文芸研究Ⅱ	半期	2			○		
	日文	儀礼文化論Ⅰ	半期	2			○		
	日文	儀礼文化論Ⅱ	半期	2			○		
	日文	伝承文学思想	半期	2				○	
	日文	民俗研究思想	半期	2				○	
合計									16 単位以上

○で示す開講学年で履修することが望ましい。ただし、履修学年に制限がない限り、当該学年以降でも履修することができる。

【3. 日本の歴史を知る（史学科の学生は登録不可）＜16 単位＞】

私たちの国、日本の歴史について、その全体像、区分された時代、政治・美術・思想といった各分野の歴史を体系的に学びます。現代につながる生きた歴史を知することは、私たち自身を知るためのもっともよい方法です。外国の人に日本を説明する基礎知識になります。

科目区分	科目供出	授業科目名	開講	単位	1 年	2 年	3 年	4 年	備考
選択必修科目	史	日本史概論Ⅰ	半期	2	○				4 単位以上
	史	日本史概論Ⅱ	半期	2	○				
	史	考古学概論Ⅰ	半期	2	○				
	史	考古学概論Ⅱ	半期	2	○				
選択科目	史	日本時代史Ⅰ	半期	2	○				
	史	日本時代史Ⅱ	半期	2	○				
	史	日本時代史Ⅲ	半期	2	○				
	史	日本時代史Ⅳ	半期	2	○				
	史	日本時代史Ⅴ	半期	2	○				
	史	日本時代史Ⅵ	半期	2	○				
	史	日本時代史Ⅶ	半期	2	○				
	史	日本時代史Ⅷ	半期	2	○				
	史	有職故実Ⅰ	半期	2		○			
	史	有職故実Ⅱ	半期	2		○			
	史	日本文化史Ⅰ	半期	2		○			
	史	日本文化史Ⅱ	半期	2		○			
合計									16 単位以上

○で示す開講学年で履修することが望ましい。ただし、履修学年に制限がない限り、当該学年以降でも履修することができる。

【4. 政治と法の基礎（比較研究）（法学部の学生は登録不可）＜16 単位＞】

このプログラムでは、法や政治の現状、およびそれぞれが社会において果たす機能を国際的な比較の観点から把握し、分析することの基本を学びます。そうすることによって、法や政治における普遍的なものを理解することができ、そこから、日本におけるそれらの特徴をよりよく理解できるようになるでしょう。

科目区分	科目供出	授業科目名	開講	単位	1 年	2 年	3 年	4 年	備考
選択必修科目	共通	法学（日本国憲法）	半期	2			○		16 単位以上
	共通	国際政治入門	半期	2			○		
	共通	比較政治入門	半期	2			○		
	共通	地域研究入門	半期	2			○		
	共通	比較法入門	半期	2			○		
	法	政治学概論	半期	2	○				
	法	国際政治 A	半期	2		○			
	法	国際政治 B	半期	2		○			
	法	日本の政治 A	半期	2		○			
	法	日本の政治 B	半期	2		○			
	法	外国法 A	半期	2				○	
	法	外国法 B	半期	2				○	
	法	比較政治 A	半期	2				○	
	法	比較政治 B	半期	2				○	
	法	地域研究	半期	2				○	
合計									16 単位以上

○で示す開講学年で履修することが望ましい。ただし、履修学年に制限がない限り、当該学年以降でも履修することができる。

【5. 政治と法の基礎（歴史研究）（法学部の学生は登録不可）＜16 単位＞】

このプログラムでは、法や政治のあり方、およびそれぞれが社会において果たす機能を歴史的な比較の観点から把握し、分析することの基本を学びます。現代の法や政治がどのような歴史的背景をもって形成されてきたのかを知り、また、それらがどうあるべきだと考えられてきたかを知ることを通じて、それらの有り様をよりよく理解できるようになるでしょう。

科目区分	科目供出	授業科目名	開講	単位	1 年	2 年	3 年	4 年	備考
選択必修科目	共通	國學院の学び（國學院と法制史学）	半期	2			○		16 単位以上
	法	日本政治史 A	半期	2	○				
	法	日本政治史 B	半期	2	○				
	法	西洋政治史 A	半期	2	○				
	法	西洋政治史 B	半期	2	○				
	法	国際関係史 A	半期	2	○				
	法	国際関係史 B	半期	2	○				
	法	日本政治思想史 A	半期	2		○			
	法	日本政治思想史 B	半期	2		○			
	法	西洋政治思想史 A	半期	2		○			
	法	西洋政治思想史 B	半期	2		○			
	法	アジア政治史 A	半期	2		○			
	法	アジア政治史 B	半期	2		○			
	法	法制史 A	半期	2				○	
	法	法制史 B	半期	2				○	
合計									16 単位以上

○で示す開講学年で履修することが望ましい。ただし、履修学年に制限がない限り、当該学年以降でも履修することができる。

【6. 経済学の基礎※（経済学部学生は登録不可）＜16単位＞】

経済学の基本的な分野について体系的に学びます。「マクロ経済学」「ミクロ経済学」「統計学」を基本に、財政や金融、日本経済や国際経済などに加え、経済学の学説史や思想なども学んでいきます。経済学を用いて現代社会を分析する視野を身につけます。なお、共通教育プログラムの専門教養科目群で「経済学A～経済と経営～」のパッケージを修得するとよいでしょう。

科目区分	科目供出	授業科目名	開講	単位	1年	2年	3年	4年	備考
選択必修科目	経済	財政の基礎	半期	2		○			4単位以上
	経済	金融の基礎	半期	2		○			
	経済	マクロ経済学◆ ¹	半期	2		○			
	経済	ミクロ経済学◆ ¹	半期	2		○			
選択科目	経済	社会経済学入門	半期	2		○			
	経済	現代日本経済	半期	2		○			
	経済	国際経済◆ ²	半期	2		○			
	経済	統計学◆ ³	半期	2		○			
	経済	経済原論◆ ⁴	半期	2		○			
	経済	経済学史	半期	2			○		
合計									16単位以上

○で示す開講学年で履修することが望ましい。ただし、履修学年に制限がない限り、当該学年以降でも履修することができる。

※ 経済学は積み上げ型の学問です。◆のついている授業科目の履修に際しては、事前に単位修得が望まれる科目がありますので、以下の表で確認してください。

記号	事前に単位修得が望まれる科目	記号	事前に単位修得が望まれる科目
◆1	経済理論入門	◆3	経済統計の見方
◆2	世界の経済	◆4	社会経済学入門

【7. 情報学の基礎*（経済学部[※]の学生は登録不可）＜16 単位＞】

単なるアプリケーションソフトウェアの利用方法ではなく、情報システムやネットワーク、情報メディア、プログラミングなど情報学の様々な分野を講義科目と実習科目のバランスをとって学んでいきます。この科目群を一通り修得すると、価値を創造する情報の高度な利用者として必要な情報学の知識を身につけることになります。

科目区分	科目供出	授業科目名	開講	単位	1 年	2 年	3 年	4 年	備考
必修科目	経済	コンピュータ基礎◇ ¹	半期	2	○				2 単位
選択必修科目 I	経済	情報システムの基礎	半期	2	○				4 単位以上
	経済	情報システム◇ ²	半期	2		○			
	経済	情報メディア問題入門	半期	2		○			
	経済	コンピュータ応用・データベース◇ ³	半期	2		○			
	経済	情報倫理とセキュリティ◇ ²	半期	2			○		
選択必修科目 II	経済	情報処理の基礎◇ ²	半期	2		○			2 単位以上
	経済	プログラミング技法◇ ⁴	半期	2			○		
	経済	プログラミング演習◇ ⁵	半期	2			○		
選択必修科目 III	経済	コンピュータ応用・ネットワーク活用◇ ⁶	半期	2		○			2 単位以上
	経済	情報通信ネットワーク◇ ²	半期	2			○		
	経済	コンピュータ実践・セキュリティ管理◇ ⁷	半期	2			○		
選択必修科目 IV	経済	コンピュータ応用・プレゼンテーション◇ ⁶	半期	2		○			2 単位以上
	経済	マルチメディア表現と技術◇ ²	半期	2		○			
	経済	コンピュータ応用・Web デザイン◇ ⁸	半期	2			○		
	経済	コンピュータ実践・シミュレーション◇ ⁴	半期	2			○		
合計									16 単位以上

○で示す開講学年で履修することが望ましい。ただし、履修学年に制限がない限り、当該学年以降でも履修することができる。

※ ◇のついている授業科目の履修に際しては、単位修得が履修条件となる科目がありますので、以下の表で確認してください。

記号	単位修得が履修条件となる科目	記号	単位修得が履修条件となる科目	記号	単位修得が履修条件となる科目
◇1	コンピュータと情報	◇4	コンピュータ基礎	◇7	コンピュータ基礎
◇2	情報システムの基礎		情報処理の基礎		情報通信ネットワーク
◇3	コンピュータ基礎	◇5	プログラミング技法	◇8	コンピュータ基礎
	情報システム	◇6	コンピュータ基礎		マルチメディア表現と技術

【8. 経営学の基礎※（経済学部学生は登録不可）＜16 単位＞】

経営学の基本的な分野について体系的に学びます。ヒト・モノ・カネといった経営資源の管理、経営の戦略と組織、環境変化への対応など経営学の基礎的用語、理論、フレームワークについて事例や歴史を踏まえて理解し、現実の企業行動を分析できる視座を身につけます。なお、共通教育プログラムの専門教養科目群で「経済学 A～経済と経営～」のパッケージを修得するとよいでしょう。

科目区分	所属	授業科目名	開講	単位	1 年	2 年	3 年	4 年	備考
選択必修科目	経済	簿記と財務報告 B◇	半期	2	○				4 単位以上
	経済	企業財務の基礎	半期	2		○			
	経済	経営戦略の基礎◆ ¹	半期	2		○			
	経済	マーケティングの基礎◆ ¹	半期	2		○			
選択科目	経済	財務会計◇	半期	2		○			
	経済	企業問題入門	半期	2		○			
	経済	経営史	半期	2		○			
	経済	経営組織◆ ²	半期	2		○			
	経済	国際経営◆ ¹	半期	2		○			
	経済	予算管理◇	半期	2		○			
合計									16 単位以上

○で示す開講学年で履修することが望ましい。ただし、履修学年に制限がない限り、当該学年以降でも履修することができる。

※ ◆¹ のついている授業科目の履修に際しては、「会社入門」の単位修得が事前に望まれます。

※ ◆² のついている授業科目の履修に際しては、「経営理論入門」の単位修得が事前に望まれます。

※ ◇のついている授業科目の履修に際しては、「簿記と財務報告 A」の単位修得が履修条件となります。

【9. 神道文化を学ぶ（神道文化学部の学生は登録不可）＜16 単位＞】

神道は日本文化の多様性や寛容性を理解するための重要な鍵です。このプログラムでは神道の歴史や思想に関する基幹的な科目を学んで基礎的な知識を習得し、さらに古典・芸能などにみられる神道の影響を学ぶことにより、幅広い日本の神道文化の諸相を理解することができます。

科目区分	科目供出	授業科目名	開講	単位	1 年	2 年	3 年	4 年	備考
選択必修 科目 I	神文	神道史学Ⅰ	通年	4	○				8 単位以上
	神文	古典講読Ⅰ	通年	4	○				
	神文	神道史学ⅡA	半期	2		○			
	神文	神道史学ⅡB	半期	2		○			
	神文	神道思想史学Ⅰ	半期	2		○			
	神文	神道思想史学Ⅱ※1	半期	2		○			
	神文	国学概論Ⅰ	半期	2		○			
	神文	国学概論Ⅱ	半期	2		○			
	神文	祭祀学Ⅰ	半期	2			○		
	神文	祭祀学Ⅱ※2	半期	2			○		
選択必修 科目Ⅱ	神文	日本宗教文化論Ⅰ	半期	2	○				8 単位以上
	神文	日本宗教文化論Ⅱ	半期	2	○				
	神文	宗教考古学Ⅰ	半期	2		○			
	神文	宗教考古学Ⅱ	半期	2		○			
	神文	比較文化学Ⅰ	半期	2		○			
	神文	比較文化学Ⅱ	半期	2		○			
	神文	仏教文化研究Ⅰ	半期	2		○			
	神文	仏教文化研究Ⅱ	半期	2		○			
	神文	神道と環境Ⅰ	半期	2			○		
	神文	神道と環境Ⅱ	半期	2			○		
	神文	教派神道研究Ⅰ	半期	2			○		
	神文	教派神道研究Ⅱ	半期	2			○		
	神文	宗教芸術研究Ⅰ	半期	2			○		
	神文	宗教芸術研究Ⅱ	半期	2			○		
合計									16 単位以上

○で示す開講学年で履修することが望ましい。ただし、履修学年に制限がない限り、当該学年以降でも履修することができる。

※1 「神道思想史学Ⅰ」を修得していること。

※2 「祭祀学Ⅰ」を修得していること。

【10. 宗教文化（神道文化学部の学生は登録不可）＜16 単位＞】

このプログラムは大きく 2 つの選択必修科目群に区分されています。1 つめは、宗教についての概念や研究方法などの基本的な要素について理解するための科目であり、2 つめはさまざまな宗教文化の歴史的展開や、現代社会のなかでの意味を学ぶための科目です。両方の科目群をバランスよく学びながら、国際化・情報化が進む現代社会で相互理解を深めつつ活躍できる力を養います。

科目区分	科目供出	授業科目名	開講	単位	1 年	2 年	3 年	4 年	備考
選択必修科目 I	神文	宗教学 I	半期	2	○				4 単位以上
	神文	宗教学 II	半期	2	○				
	神文	世界宗教文化論 I	半期	2	○				
	神文	世界宗教文化論 II	半期	2	○				
	神文	日本宗教文化論 I	半期	2	○				
	神文	日本宗教文化論 II	半期	2	○				
	神文	宗教社会学 I	半期	2		○			
	神文	宗教社会学 II	半期	2		○			
選択必修科目 II	神文	比較文化学 I	半期	2		○			4 単位以上
	神文	比較文化学 II	半期	2		○			
	神文	キリスト教文化研究 I	半期	2		○			
	神文	キリスト教文化研究 II	半期	2		○			
	神文	仏教文化研究 I	半期	2		○			
	神文	仏教文化研究 II	半期	2		○			
	神文	神道と国際交流 I	半期	2			○		
	神文	神道と国際交流 II	半期	2			○		
	神文	中東文化研究 I	半期	2			○		
	神文	中東文化研究 II	半期	2			○		
	神文	東アジア文化研究 I	半期	2			○		
	神文	東アジア文化研究 II	半期	2			○		
	神文	神道と情報化社会 I	半期	2				○	
	神文	神道と情報化社会 II	半期	2				○	
	神文	教派神道研究 I	半期	2				○	
	神文	教派神道研究 II	半期	2				○	
合計									16 単位以上

○で示す開講学年で履修することが望ましい。ただし、履修学年に制限がない限り、当該学年以降でも履修することができる。

※ 本プログラム修了者は、日本宗教学会・「宗教と社会」学会と連携して運営される宗教文化教育推進センターによる「宗教文化士」資格の単位認定科目を満たします。詳細は、本学ホームページ（[[在学生と保護者の方] → [資格取得] → [資格取得講座] → [認定資格「宗教文化士」]]）を確認してください。

Ⅲ. チャレンジ・プログラム

【古典教育研究※1＜16単位＞】

本学が全学規模のスローガンとして掲げる「教職の國學院」に基づき、本学の学統の強靱さを背景に「古典教育のプロフェッショナル」を養成するためのチャレンジ・プログラムです。一般的な国語科教員免許の取得にとどまらず、「古典研究の國學院」という伝統・学統を継承、発展させる能力を修得し、古典研究の専門性を活かした教育のできる教員の養成を目的としています。

科目区分	科目供出	授業科目名	開講	単位	1 年	2 年	3 年	4 年	日本文学科	中国文学科
必修 科目Ⅰ	日文	古典教育研究Ⅰ	半期	2			○		4 単位	4 単位
	日文	古典教育研究Ⅱ	半期	2			○			
必修 科目Ⅱ※2	日文	基礎漢文学	半期	2	○				2 単位	履修不可
選択必修 科目Ⅰ	日文	日本古典文学研究ⅠA	半期	2		○			4 単位以上	4 単位以上
	日文	日本古典文学研究ⅠB	半期	2		○				
	日文	日本古典文学研究ⅡA	半期	2		○				
	日文	日本古典文学研究ⅡB	半期	2		○				
	日文	日本古典文学研究ⅢA	半期	2			○			
	日文	日本古典文学研究ⅢB	半期	2			○			
	日文	日本古典文学研究ⅣA	半期	2			○			
選択必修 科目Ⅱ	日文	日本古典文学研究ⅣB	半期	2			○		3 年次 以降に 6 単位以上	4 単位以上
	中文	中国古典読法基礎	半期	2	○					
	中文	中国文学基礎Ⅰ	半期	2		○				
	中文	中国文学基礎Ⅱ	半期	2		○				
	中文	中国原典研究Ⅰ	半期	2			○			
選択必修 科目Ⅲ※3	中文	中国原典研究Ⅱ	半期	2			○			2 単位以上
	日文	基礎日本古典文学	通年	4	○					
選択科目	日文	基礎日本古典語	通年	4	○					
	日文	日本語学史Ⅰ	半期	2			○			
	日文	日本語学史Ⅱ	半期	2			○			
	日文	古代日本語文法Ⅰ	半期	2			○			
	日文	古代日本語文法Ⅱ	半期	2			○			
合計									16 単位以上	

○で示す開講学年で履修することが望ましい。ただし、履修学年に制限がない限り、当該学年以降でも履修することができる。

※1 日本文学科以外の学生が取得しようとする場合は、中国文学科の履修条件に準じる。

※2 中国文学科の学生は、「基礎漢文学」を修得する必要はありません。

※3 日本文学科の学生は、「基礎日本古典語」及び「基礎日本古典文学」は選択科目となります。

履修登録

「国語科教育法Ⅰ」の修得後、または「国語科教育法Ⅱ」の履修登録後に、教務課で所定の手続きを行ってください。なお、教務課での手続き期間は、3年後期または4年後期の履修登録期間となります。

「古典教育研究」修了証

本プログラムの修了者には卒業時に「古典教育研究」修了証が授与されます。修了証の授与を受けるためには、教務課で本プログラムの履修登録を行い、本プログラムで設定された単位を修得することが必要となります。

【グローバル・チャレンジ・プログラム】

グローバル・チャレンジ・プログラムは、日本文化を世界に発信できる知識と技能を身につけた、國學院大學にふさわしいグローバル人材の基礎力を獲得するためのプログラムです。日本文化に関する基礎科目で単位を取得のうえ、外国語力、海外留学、海外渡航経験、国内での国際交流活動で指定されたグローバル・チャレンジ・ポイントを取得し、卒業時まで計8ポイント以上を獲得した学生には、「グローバル・チャレンジ・プログラム」のプログラム修了証が交付されます。

グローバル・チャレンジ・プログラムに挑戦する場合は、登録する必要があります。登録は国際交流課において随時受け付けております。なお、登録方法に関する詳細は、国際交流課や本学ホームページ等で確認してください。

プログラム修了要件

区分	プログラム修了要件	
日本文化に関する基礎科目	「Japan Studies」2単位を含め、6単位必修	
外国語力	2ポイント獲得	左記の計4ポイントを含め、計8ポイント以上を獲得
海外留学	2ポイント獲得	
海外渡航経験		
国内での国際交流活動		

1. 日本文化に関する基礎科目（共通教育プログラムの國學院科目群）

授業科目	学年	単位	備考
日本文化を知る	1	2	() 内のテーマが異なれば同一の授業科目でも複数履修可
Japan Studies	2	2	8単位まで複数履修可

2. グローバル・チャレンジ・ポイント表^{※1}

区分		検定試験・留学の種類	4ポイント	2ポイント	1ポイント
外国語力 ^{※2}	英語	TOEIC	730点以上	---	---
		TOEFL (iBT)	70点以上	50点以上	---
		TOEFL (ITP)	523点以上	463点以上	---
		実用英語技能検定	準1級以上	---	---
	中国語	中国語検定	2級以上	3級	---
		HSK6級	180点以上	---	---
		HSK5級	195点以上	180～194点	---
		HSK4級	---	合格	---
		TOCFL (聴力・閱讀)	高階級	進階級	---
	ドイツ語	ドイツ語検定	2級以上	3級	---
海外留学 ^{※3}	フランス語	フランス語検定	2級以上	3級	---
		協定留学	2学期間	1学期間	---
		私費留学	2学期間	1学期間	4週間
		セメスター留学	---	セメスター留学	---
		短期留学	---	---	夏期・短期

区分	ポイント数	内容
海外渡航経験 ^{※4}	1ポイント	海外ボランティア参加、海外での国際交流活動、観光目的の海外渡航、その他（海外でのインターンシップ参加等）
国内での国際交流活動 ^{※5}	---	K-STEP アシスタントにおける活動、日本文化の発信活動、その他

※1 ポイント取得の対象となる検定試験・留学の種類及び海外渡航経験・国内での国際交流活動は、在学時のものに限りします。

※2 外国語力におけるポイント取得は、各外国語で最大4ポイントまでとなります。

※3 海外留学によるポイント取得には、所定の書式による留学報告書の提出が必要です。また、同一大学への同一留学プログラムに複数回参加した場合は、ポイントが取得できるのは1回のみとします。

※4 海外渡航によるポイント取得には、所定の書式による報告書の提出が必要です。また、ポイントは1回の渡航、活動参加で1ポイントが目安ですが、「グローバル人材のための基礎力養成」の観点で国際交流推進部が活動報告書を審査のうえ決定します。

※5 国内での国際交流活動によるポイント取得には、所定の書式による報告書の提出が必要です。また、認定の対象となるポイント数は「グローバル人材のための基礎力養成」の観点で国際交流推進部が活動報告書を審査のうえ決定します。

Ⅳ. 全学オープン科目

【日本文学科開講科目】

すべての学生が履修可能な科目一覧

授業科目	開講	単位	学年
基礎日本古典文学	通年	4	1
基礎日本古典語	通年	4	1
日本語教育学演習Ⅰ	通年	4	3・4
日本語教育学演習Ⅱ	通年	4	3・4
日本文学史Ⅰ	半期	2	2
日本文学史Ⅱ	半期	2	2
日本古典文学研究ⅠB	半期	2	2
日本古典文学研究ⅡA	半期	2	2
日本古典文学研究ⅡB	半期	2	2
日本古典文学研究ⅢA	半期	2	3・4
日本古典文学研究ⅢB	半期	2	3・4
日本古典文学研究ⅣA	半期	2	3・4
日本古典文学研究ⅣB	半期	2	3・4
日本語史Ⅰ	半期	2	2
日本語史Ⅱ	半期	2	2
日本語学史Ⅰ	半期	2	3
日本語学史Ⅱ	半期	2	3
言語学概論Ⅰ	半期	2	3
言語学概論Ⅱ	半期	2	3
日本語音声学Ⅰ	半期	2	3
日本語音声学Ⅱ	半期	2	3
古代日本語文法Ⅰ	半期	2	3
古代日本語文法Ⅱ	半期	2	3
現代日本語文法Ⅰ	半期	2	3
現代日本語文法Ⅱ	半期	2	3
現代日本語研究Ⅰ	半期	2	3
現代日本語研究Ⅱ	半期	2	3
日本語学各論Ⅰ	半期	2	3

授業科目	開講	単位	学年
日本語学各論Ⅱ	半期	2	3
日本語教授法Ⅰ	半期	2	3
日本語教授法Ⅱ	半期	2	3
日本語教育研究Ⅰ	半期	2	3
日本語教育研究Ⅱ	半期	2	3
日本語教育実習Ⅰ	集中	1	3
日本語教育実習Ⅱ	集中	2	3
民俗学史Ⅱ	半期	2	2
伝承文学史Ⅰ	半期	2	3
伝承文学史Ⅱ	半期	2	3
日本民俗学Ⅰ	半期	2	3
日本民俗学Ⅱ	半期	2	3
口承文芸研究Ⅰ	半期	2	3
口承文芸研究Ⅱ	半期	2	3
儀礼文化論Ⅰ	半期	2	3
儀礼文化論Ⅱ	半期	2	3
伝承文学研究ⅠA	半期	2	2
伝承文学研究ⅡA	半期	2	2
伝承文学思想	半期	2	3・4
民俗研究思想	半期	2	3・4
マスコミュニケーション論ⅠA	半期	2	3
マスコミュニケーション論ⅠB	半期	2	3
マスコミュニケーション論ⅡA	半期	2	3
マスコミュニケーション論ⅡB	半期	2	3
古典教育研究Ⅰ	半期	2	3
古典教育研究Ⅱ	半期	2	3

文学部の学生が履修可能な科目一覧※

授業科目	開講	単位	学年
日本古典文学研究ⅠA	半期	2	2
民俗学史Ⅰ	半期	2	2

※ 文学部以外の学生は、共通教育プログラムの専門教養科目群「人文学～人類の叡智～」の授業科目として履修可

文学部及び神道文化学部の学生が履修可能な科目一覧

授業科目	開講	単位	学年
日本書道史Ⅰ	半期	2	3
日本書道史Ⅱ	半期	2	3
中国書道史Ⅰ	半期	2	3
中国書道史Ⅱ	半期	2	3
書道概論	半期	2	3

授業科目	開講	単位	学年
書論研究	半期	2	3
古筆学	半期	2	3
篆書法篆刻学	半期	2	3
隷書法	半期	2	3

【中国文学科開講科目】

すべての学生が履修可能な科目一覧

授業科目	開講	単位	学年
中国古典読法基礎	半期	2	1
中国原典研究Ⅰ	半期	2	3・4
中国原典研究Ⅱ	半期	2	3・4
中国文学基礎Ⅰ	半期	2	2
中国文学基礎Ⅱ	半期	2	2
中国文学基礎Ⅲ	半期	2	2
中国語教養基礎Ⅰ	半期	2	2
中国文学特殊講義Ⅰ	半期	2	3・4
中国文学特殊講義Ⅱ	半期	2	3・4
中国語教養特殊講義Ⅰ	半期	2	3・4
中国語教養特殊講義Ⅱ	半期	2	3・4
中国民俗文化特殊講義Ⅰ	半期	2	3・4
中国民俗文化特殊講義Ⅱ	半期	2	3・4
人文総合特殊講義Ⅰ	半期	2	3・4
人文総合特殊講義Ⅱ	半期	2	3・4
中国学特殊講義Ⅰ（文学）	半期	2	3・4

授業科目	開講	単位	学年
中国学特殊講義Ⅱ（文学）	半期	2	3・4
中国学特殊講義Ⅲ（中国語応用）	半期	2	3・4
中国学特殊講義Ⅳ（中国語応用）	半期	2	3・4
中国学特殊講義Ⅴ（中国語応用）	半期	2	3・4
中国学特殊講義Ⅵ（思想・宗教）	半期	2	3・4
中国学特殊講義Ⅶ（思想・宗教）	半期	2	3・4
中国学特殊講義Ⅷ（歴史）	半期	2	3・4
中国学特殊講義Ⅸ（歴史）	半期	2	3・4
中国学特殊講義Ⅹ（芸術）	半期	2	3・4
中国学特殊講義ⅩⅠ（芸術）	半期	2	3・4
中国学特殊講義ⅩⅡ（生活文化）	半期	2	3・4
中国学特殊講義ⅩⅢ（生活文化）	半期	2	3・4
中国学特殊講義ⅩⅣ（言語文化）	半期	2	3・4
中国学特殊講義ⅩⅤ（言語文化）	半期	2	2～4
中国学特殊講義ⅩⅥ（言語文化）	半期	2	2～4

日本文学科を除く文学部の学生が履修可能な科目一覧※1・2

授業科目	開講	単位	学年
中国学入門	半期	2	1

※1 日本文学科の学生は、専門教育科目として履修可

※2 文学部以外の学生は、共通教育プログラムの専門教養科目群「人文学～人類の叡智～」の授業科目として履修可

日本文学科以外の学生が履修可能な科目一覧

授業科目	開講	単位	学年
中国文学概説	半期	2	1
日本文学概論Ⅰ	半期	2	1
日本文学概論Ⅱ	半期	2	1
日本語学概論Ⅰ	半期	2	1
日本語学概論Ⅱ	半期	2	1

中国語圏へのセメスター留学先で開講する科目一覧

授業科目	開講	単位	学年
中国語教養基礎Ⅱ	半期	2	2
中国語教養基礎Ⅲ	半期	2	2
中国学特殊講義ⅩⅤ（言語文化）	半期	2	2～4
中国学特殊講義ⅩⅥ（言語文化）	半期	2	2～4
中国学特殊講義ⅩⅦ（言語文化）	半期	2	2～4

【外国語文化学科開講科目】

すべての学生が履修可能な科目一覧

授業科目	開講	単位	学年
英語コミュニケーション演習 A	半期	2	3・4
英語コミュニケーション演習 B	半期	2	3・4
ドイツ語コミュニケーション演習 A	半期	2	3・4
ドイツ語コミュニケーション演習 B	半期	2	3・4
フランス語コミュニケーション演習 A	半期	2	3・4
フランス語コミュニケーション演習 B	半期	2	3・4
中国語コミュニケーション演習 A	半期	2	3・4
中国語コミュニケーション演習 B	半期	2	3・4
英語展開演習 A	半期	2	3・4
英語展開演習 B	半期	2	3・4
ドイツ語展開演習 A	半期	2	3・4
ドイツ語展開演習 B	半期	2	3・4
フランス語展開演習 A	半期	2	3・4
フランス語展開演習 B	半期	2	3・4
中国語展開演習 A	半期	2	3・4
中国語展開演習 B	半期	2	3・4
英米語研究 I	半期	2	3・4
英米語研究 II	半期	2	3・4
ドイツ語研究 I	半期	2	3・4
ドイツ語研究 II	半期	2	3・4
フランス語研究 I	半期	2	3・4
フランス語研究 II	半期	2	3・4
中国語研究 I	半期	2	3・4

授業科目	開講	単位	学年
中国語研究 II	半期	2	3・4
日本語学 I	半期	2	3・4
日本語学 II	半期	2	3・4
ビジネス英語 I	半期	2	2～4
ビジネス英語 II	半期	2	2～4
比較文化論 I	半期	2	2
比較文化論 II	半期	2	2
英米地域文化論 I	半期	2	2
英米地域文化論 II	半期	2	2
ヨーロッパ地域文化論 I	半期	2	2
ヨーロッパ地域文化論 II	半期	2	2
中国地域文化論 I	半期	2	2
中国地域文化論 II	半期	2	2
外国文学 I (英)	半期	2	3・4
外国文学 II (米)	半期	2	3・4
外国文学 III (独)	半期	2	3・4
外国文学 IV (独)	半期	2	3・4
外国文学 V (仏)	半期	2	3・4
外国文学 VI (仏)	半期	2	3・4
外国文学 VII (中)	半期	2	3・4
外国文学 VIII (中)	半期	2	3・4
情報文化論 I	半期	2	3・4
情報文化論 II	半期	2	3・4

【史学科開講科目】

すべての学生が履修可能な科目一覧

授業科目	開講	単位	学年
日本史概論Ⅰ	半期	2	1
日本史概論Ⅱ	半期	2	1
東洋史概論Ⅰ	半期	2	1
東洋史概論Ⅱ	半期	2	1
西洋史概論Ⅰ	半期	2	1
西洋史概論Ⅱ	半期	2	1
考古学概論Ⅰ	半期	2	1
考古学概論Ⅱ	半期	2	1
地域文化と景観概論Ⅰ	半期	2	1
地域文化と景観概論Ⅱ	半期	2	1
日本時代史Ⅰ	半期	2	1
日本時代史Ⅱ	半期	2	1
日本時代史Ⅲ	半期	2	1
日本時代史Ⅳ	半期	2	1
日本時代史Ⅴ	半期	2	1
日本時代史Ⅵ	半期	2	1
日本時代史Ⅶ	半期	2	1
日本時代史Ⅷ	半期	2	1
東洋地域史Ⅰ	半期	2	1
東洋地域史Ⅱ	半期	2	1
東洋地域史Ⅲ	半期	2	1
東洋地域史Ⅳ	半期	2	1
西洋地域史Ⅰ	半期	2	1
西洋地域史Ⅱ	半期	2	1
西洋地域史Ⅲ	半期	2	1

授業科目	開講	単位	学年
西洋地域史Ⅳ	半期	2	1
考古学各論Ⅰ	半期	2	1
考古学各論Ⅱ	半期	2	1
考古学各論Ⅲ	半期	2	1
考古学各論Ⅳ	半期	2	1
考古学各論Ⅴ	半期	2	1
考古学各論Ⅵ	半期	2	1
地域文化各論Ⅰ	半期	2	1
地域文化各論Ⅱ	半期	2	1
地域文化各論Ⅲ	半期	2	1
地域文化各論Ⅳ	半期	2	1
文化景観各論Ⅰ	半期	2	1
文化景観各論Ⅱ	半期	2	1
有職故実Ⅰ	半期	2	2
有職故実Ⅱ	半期	2	2
古文書学Ⅰ	半期	2	2
古文書学Ⅱ	半期	2	2
日本文化史Ⅰ	半期	2	2
日本文化史Ⅱ	半期	2	2
文化人類学Ⅰ	半期	2	2
文化人類学Ⅱ	半期	2	2
人文地理学	半期	2	2
自然地理学	半期	2	2
地誌学	半期	2	2

【哲学科開講科目】

すべての学生が履修可能な科目一覧

授業科目	開講	単位	学年
西洋哲学史ⅠA	半期	2	1
西洋哲学史ⅠB	半期	2	1
倫理学A	半期	2	1・2
倫理学B	半期	2	1・2
論理学A	半期	2	1・2
論理学B	半期	2	1・2
西洋美術史ⅠA	半期	2	1・2
西洋美術史ⅠB	半期	2	1・2
哲学概論A	半期	2	2・3
哲学概論B	半期	2	2・3
美学A	半期	2	2・3
美学B	半期	2	2・3
日本哲学A	半期	2	2・3
日本哲学B	半期	2	2・3
西洋哲学史ⅡA	半期	2	1・2
西洋哲学史ⅡB	半期	2	1・2
日本思想史A	半期	2	1・2
日本思想史B	半期	2	1・2
中国思想史A	半期	2	1・2
中国思想史B	半期	2	1・2
インド思想史A	半期	2	2・3
インド思想史B	半期	2	2・3
日本美術史A	半期	2	1・2
日本美術史B	半期	2	1・2
東洋美術史A	半期	2	1・2
東洋美術史B	半期	2	1・2

授業科目	開講	単位	学年
西洋美術史ⅡA	半期	2	2・3
西洋美術史ⅡB	半期	2	2・3
応用倫理学A	半期	2	3
応用倫理学B	半期	2	3
科学哲学A	半期	2	2
科学哲学B	半期	2	2
現代哲学A	半期	2	3
現代哲学B	半期	2	3
宗教哲学A	半期	2	3
宗教哲学B	半期	2	3
言語論A	半期	2	3・4
言語論B	半期	2	3・4
比較思想A	半期	2	3・4
比較思想B	半期	2	3・4
キリスト教概論A	半期	2	3
キリスト教概論B	半期	2	3
仏教概論A	半期	2	3
仏教概論B	半期	2	3
比較芸術学A	半期	2	3・4
比較芸術学B	半期	2	3・4
ギリシャ語Ⅰ	通年	4	2
ギリシャ語Ⅱ※ ¹	通年	4	3
ラテン語Ⅰ	通年	4	2
ラテン語Ⅱ※ ²	通年	4	3
サンスクリット語Ⅰ	通年	4	2
サンスクリット語Ⅱ※ ³	通年	4	3

※1 履修にあたって、「ギリシャ語Ⅰ」の単位修得が条件となります。

※2 履修にあたって、「ラテン語Ⅰ」の単位修得が条件となります。

※3 履修にあたって、「サンスクリット語Ⅰ」の単位修得が条件となります。

【法学部開講科目※1】

すべての学生が履修可能な科目一覧

授業科目	開講	単位	学年
刑事政策 A	半期	2	3・4
刑事政策 B	半期	2	3・4
企業法務	半期	2	3・4
税法 A	半期	2	3・4
税法 B	半期	2	3・4
不動産登記法	半期	2	3・4
環境法	半期	2	3・4
消費者法	半期	2	3・4
政治学概論	半期	2	1
法哲学 A	半期	2	3・4
法哲学 B	半期	2	3・4
外国法 A	半期	2	3・4
外国法 B	半期	2	3・4
法制史 A	半期	2	3・4
法制史 B	半期	2	3・4
法社会学 A	半期	2	3・4
法社会学 B	半期	2	3・4
行政学 A	半期	2	2
行政学 B	半期	2	2
国際政治 A	半期	2	2
国際政治 B	半期	2	2
日本政治思想史 A	半期	2	2
日本政治思想史 B	半期	2	2
西洋政治思想史 A	半期	2	2
西洋政治思想史 B	半期	2	2

授業科目	開講	単位	学年
社会学 A	半期	2	3・4
社会学 B	半期	2	3・4
政治哲学 A	半期	2	3・4
政治哲学 B	半期	2	3・4
日本政治史 A	半期	2	1
日本政治史 B	半期	2	1
西洋政治史 A	半期	2	1
西洋政治史 B	半期	2	1
20 世紀の政治 A	半期	2	1
20 世紀の政治 B	半期	2	1
国際関係史 A	半期	2	1
国際関係史 B	半期	2	1
日本外交史 A	半期	2	2
日本外交史 B	半期	2	2
アジア政治史 A	半期	2	2
アジア政治史 B	半期	2	2
日本の政治 A	半期	2	2
日本の政治 B	半期	2	2
比較政治 A	半期	2	3・4
比較政治 B	半期	2	3・4
地域研究※2	半期	2	3・4
法教育演習※3	半期	2	3・4
心理学 A	半期	2	3・4
心理学 B	半期	2	3・4

※1 『時間割表』上で授業科目の先頭に「(専)」と表記されている法律専門職専攻の授業科目は履修不可

※2 テーマが異なれば複数履修可

※3 履修にあたって、「法教育入門」の単位修得が条件となります。

経済学部以外の学生が履修可能な科目一覧

授業科目	開講	単位	学年
地方自治論 A	半期	2	3・4
地方自治論 B	半期	2	3・4

【経済学部開講科目】※1・2

すべての学生が履修可能な科目一覧

授業科目	開講	単位	学年
コンピュータ基礎 ^{◇1}	前後	2	1
情報システムの基礎	前後	2	1
経済統計の見方	前後	2	1
社会経済学入門	前後	2	2
統計学 ^{◆1}	前後	2	2
財政の基礎	前後	2	2
金融の基礎	前後	2	2
現代日本経済	前後	2	2
国際経済 ^{◆2}	前後	2	2
マクロ経済学 ^{◆3}	前後	2	2
ミクロ経済学 ^{◆3}	前後	2	2
経済原論 ^{◆4}	前後	2	2
日本経済史 ^{◆5}	前後	2	2
西洋経済史 ^{◆5}	前後	2	2
経済学史	前後	2	3
近代日本経済史 ^{◆5}	前後	2	3
近代西洋経済史 ^{◆5}	前後	2	3
日本経済と政策 ^{◆6}	前後	2	2
公共部門と財政 ^{◆7}	前後	2	2
国際経営 ^{◆8}	前後	2	2
環境経済の基礎	前後	2	2
経済英語 ^{※3}	前後	2	2
経済学特論 ^{※3}	前後	2	1
情報システム ^{◇2}	前後	2	2
情報メディア問題入門	前後	2	2
コンピュータ応用・データベース ^{◇3}	前後	2	2

授業科目	開講	単位	学年
コンピュータ応用・ネットワーク活用 ^{◇4}	前後	2	2
コンピュータ応用・プレゼンテーション ^{◇4}	前後	2	2
コンピュータ応用・Webデザイン ^{◇5}	前後	2	3
情報通信ネットワーク ^{◇2}	前後	2	3
マルチメディア表現と技術 ^{◇2}	前後	2	2
情報処理の基礎 ^{◇2}	前後	2	2
情報倫理とセキュリティ ^{◇2}	前後	2	3
情報社会と職業 ^{◆6}	前後	2	3
コンピュータ実践・セキュリティ管理 ^{◇6}	前後	2	3
コンピュータ実践・シミュレーション ^{◇7}	前後	2	3
プログラミング技法 ^{◇7}	前後	2	3
プログラミング演習 ^{◇8}	前後	2	3
簿記と財務報告 B ^{◇9}	前後	2	1
財務会計 ^{◇9}	前後	2	2
経営情報の開示 ^{◆8}	前後	2	2
企業問題入門	前後	2	2
経営戦略の基礎 ^{◆8}	前後	2	2
経営組織 ^{◆9}	前後	2	2
企業財務の基礎	前後	2	2
日本経営史 ^{◆10}	前後	2	2
マーケティングの基礎 ^{◆8}	前後	2	2
経営史	前後	2	2
予算管理 ^{◇9}	前後	2	2
公会計 ^{◇9}	前後	2	2
経営学特論 ^{※3}	前後	2	1
会計学特論 ^{※3}	前後	2	1

※1 ◆のついている授業科目の履修に際しては、事前に単位修得が望まれる科目がありますので、以下の表で確認してください。

記号	事前に単位修得が望まれる科目	記号	事前に単位修得が望まれる科目	記号	事前に単位修得が望まれる科目
◆1	経済統計の見方	◆5	経済史の基礎	◆9	経営理論入門
◆2	世界の経済	◆6	現代日本経済	◆10	経営史
◆3	経済理論入門	◆7	財政の基礎		
◆4	社会経済学入門	◆8	会社入門		

※2 ◇のついている授業科目の履修に際しては、単位修得が履修条件となる科目がありますので、以下の表で確認してください。

記号	単位修得が履修条件となる科目	記号	単位修得が履修条件となる科目	記号	単位修得が履修条件となる科目
◇1	コンピュータと情報	◇5	コンピュータ基礎	◇7	コンピュータ基礎
◇2	情報システムの基礎		マルチメディア表現と技術		情報処理の基礎
◇3	コンピュータ基礎	◇6	コンピュータ基礎	◇8	プログラミング技法
	情報システム		情報通信ネットワーク	◇9	簿記と財務報告 A
◇4	コンピュータ基礎				

※3 テーマが異なれば複数履修可

法学部以外の学生が履修可能な科目一覧

授業科目	開講	単位	学年
憲法	通年	4	2
民法Ⅰ	前後	2	3
民法Ⅱ	前後	2	3

授業科目	開講	単位	学年
商法Ⅰ	前後	2	3
商法Ⅱ	前後	2	3

【神道文化学部開講科目】

すべての学生が履修可能な科目一覧

授業科目	開講	単位	学年
神道史学Ⅰ	通年	4	1
古典講読Ⅰ	通年	4	1
宗教学Ⅰ	半期	2	1
宗教学Ⅱ	半期	2	1
祭祀学Ⅰ	前後	2	3
祭祀学Ⅱ※ ¹	前後	2	3
神道神学Ⅰ	前後	2	3
神道神学Ⅱ	前後	2	3
神道史学ⅡA	前後	2	2
神道史学ⅡB	前後	2	2
神道思想史学Ⅰ	前後	2	2
神道思想史学Ⅱ※ ²	前後	2	2
古典講読ⅡA	前後	2	2
古典講読ⅡB※ ³	前後	2	2
国学概論Ⅰ	前後	2	2
国学概論Ⅱ	前後	2	2
世界宗教文化論Ⅰ	前後	2	1
世界宗教文化論Ⅱ	前後	2	1
日本宗教文化論Ⅰ	前後	2	1
日本宗教文化論Ⅱ	前後	2	1
宗教考古学Ⅰ	前後	2	2
宗教考古学Ⅱ	前後	2	2

授業科目	開講	単位	学年
宗教社会学Ⅰ	前後	2	2
宗教社会学Ⅱ	前後	2	2
比較文化学Ⅰ	前後	2	2
比較文化学Ⅱ	前後	2	2
神道と国際交流Ⅰ	半期	2	3
神道と国際交流Ⅱ	半期	2	3
神道と環境Ⅰ	半期	2	2～4
神道と環境Ⅱ	半期	2	2～4
神道と情報化社会Ⅰ	半期	2	3・4
神道と情報化社会Ⅱ	半期	2	3・4
教派神道研究Ⅰ	半期	2	3・4
教派神道研究Ⅱ	半期	2	3・4
キリスト教文化研究Ⅰ	半期	2	2
キリスト教文化研究Ⅱ	半期	2	2
仏教文化研究Ⅰ	半期	2	2
仏教文化研究Ⅱ	半期	2	2
中東文化研究Ⅰ	半期	2	3
中東文化研究Ⅱ	半期	2	3
東アジア文化研究Ⅰ	半期	2	3
東アジア文化研究Ⅱ	半期	2	3
宗教芸術研究Ⅰ	半期	2	3・4
宗教芸術研究Ⅱ	半期	2	3・4

※1 履修にあたって、「祭祀学Ⅰ」の単位修得が条件となります。

※2 履修にあたって、「神道思想史学Ⅰ」の単位修得が条件となります。

※3 履修にあたって、「古典講読ⅡA」の単位修得が条件となります。

【初等教育学科開講科目】

すべての学生が履修可能な科目一覧

授業科目	開講	単位	学年
伝統文化と生活論Ⅰ	半期	2	3
伝統文化と生活論Ⅱ	半期	2	3
伝統文化授業論	半期	2	3・4
ピアノ実技A	半期	1	1
ピアノ実技B	半期	1	2
理科授業構成論	半期	2	3・4
コンピュータ分析法	半期	2	3・4
算数科授業構成論	半期	2	3・4
こども生活基礎論	半期	2	1
人権教育論	半期	2	3・4

授業科目	開講	単位	学年
地域教育社会学	半期	2	2・3
家庭教育論	半期	2	2・3
臨床教育学	半期	2	2・3
人間形成の心理学	半期	2	2・3
ジェンダーと社会教育	半期	2	3・4
企業内教育Ⅰ	半期	2	3・4
企業内教育Ⅱ	半期	2	3・4
社会学A	半期	2	3・4
社会学B	半期	2	3・4

【健康体育学科開講科目】

すべての学生が履修可能な科目一覧

授業科目	開講	単位	学年
運動生理学	半期	2	1
運動技能未開発者の指導	半期	2	2
アダブテッドスポーツ	半期	2	2・3
メンタルヘルス	半期	2	2・3
体力トレーニング論	半期	2	2・3
スポーツの倫理	半期	2	2・3
コンディショニング	半期	2	2・3
ジュニアスポーツ指導論	半期	2	2・3
スポーツ行政論	半期	2	3・4
組織・リーダーシップ論	半期	2	3・4
体育社会学	半期	2	1・2
スポーツと法	半期	2	2・3
体育スポーツ経営学	半期	2	3・4

授業科目	開講	単位	学年
性別による身体特性	半期	2	2・3
健康管理論	半期	2	1・2
運動処方論	半期	2	2・3
摂食のしくみと食育	半期	2	2・3
地域社会と健康指導	半期	2	2・3
保健社会学	半期	2	2・3
武道の国際比較	半期	2	1・2
スポーツ史	半期	2	1
スポーツ人類学	半期	2	2・3
身体論	半期	2	2・3
武道文化論	半期	2	2・3
統計と測定評価	半期	2	2・3

【子ども支援学科開講科目】

すべての学生が履修可能な科目一覧

授業科目	開講	単位	学年
こども生活基礎論	半期	2	1
幼児教育史	半期	2	3・4
ピアノ実技A	半期	1	1
ピアノ実技B	半期	1	2
教育の統計	半期	2	3・4
子ども文化論	半期	2	1

授業科目	開講	単位	学年
子ども環境論	半期	2	1・2
心の科学	半期	2	1
カウンセリング概論	半期	2	2
子育て支援論	半期	2	1
子育て支援システム論	半期	2	3
コミュニティと教育	半期	2	3・4